

ホソヤカギセル *Megalophaedusa hosayaka* (Pilsbry)

【選定理由】

本種は県内では県東部を分布の中心とする中型のキセルガイで、ミカワギセル *Stereophaedusa hickonis mikawa* (Pilsbry)とよく似た分布パターンを示す。山地から平野部まで点々と分布するが、愛知県内での分布域はミカワギセルほど平野部には進出していない。良く保全された寺社林や自然林内の落葉、朽木の下に生息していることが多い。本種の生息地は現在も少なくはないが、上述のような生息環境の減少は多くの生息地で認められる。近年行われた岡崎市内での調査（木村, 2014）では、旧岡崎市内での本種の分布状況の記録（山田, 1991）と比較して、かつての生息地で生息が確認できなかった例が少なくない。また豊橋市、三河山間地における産地、個体数とも減少傾向が認められる。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長 18–28 mm 程度、殻は非常に細長く、螺塔は高く、螺層数 7–10 層、左巻き（日本産本科の貝類は全て左巻き）。成長脈は弱く、殻表は平滑で光沢がある。主襞と 3–4 の腔襞がある。若い個体の殻は淡茶褐色の半透明で、光沢が強く、老成個体では殻皮は脱落し、灰白色になる。ほとんどの個体では老成しても殻頂部は欠損しない。産地によって殻の大きさには変異が認められる。



岡崎市田原坂, 2009年10月3日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県内の分布域は比較的広く、北は長野県境付近の東三河山間部から岡崎市、西は旧豊田市、東及び南は豊橋市に分布する。

【世界および国内の分布】

日本固有種。静岡県西部、愛知県東部、三重県中部に分布し、タイプ産地は三重県鳥羽市である。近年、長野県の南部にも分布することが報告された（飯田市美術博物館, 2014）。ミカワギセルと同様、伊勢湾によって愛知県と三重県の分布が分断された分布パターンで、三重県側の分布域は志摩半島を中心とする。

【生息地の環境／生態的特性】

本種は、谷沿いや池の周辺など湿潤な環境に生息するミカワギセルと比べるとやや乾燥した環境にも見られるが、良く保全された自然林や寺社林内にある古い照葉樹林、古い杉の植林内の湿度の高い朽ち木の下などに多く生息する。シイタケ栽培のホダ木の捨て場など、ある程度の湿度が保たれた林内の有機質が多い場所では個体数が多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在の生息状況については、【選定理由】の項参照。減少の要因としては、近年の夏季の高温化に伴う森林環境の乾燥化、開発による生息環境の消失などが考えられる。シイタケ栽培のホダ木の捨て場など、里山的な環境の減少も一因としてあげられる。

【保全上の留意点】

上述した生息環境の保全が必要である。

【特記事項】

種小名の誤綴りの修正に伴いエンシュウギセルという和名が提唱され、以前の環境省レッドリストなどには、その和名で掲載されている（財団法人自然環境研究センター, 2010）。しかし、学名と標準和名とが連動する必要性は無く、本書では古くから広く流布しているホソヤカギセルで表記する。

【引用文献】

- 飯田市美術博物館, 2014. 長野県産陸生・淡水生貝類 飯島國昭コレクション（飯田市美術博物館自然資料目録第2集）, 147pp. 飯田市美術博物館, 飯田市.
- 木村昭一, 2014. ホソヤカギセル, p.327, in: 岡崎市(編), 岡崎市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックおかげさき 2014, 362pp. 岡崎市.
- 山田栄蔵, 1991. 岡崎市内の陸産貝類について, かきつばた, (17): 5–7.
- 財団法人自然環境研究センター(編), 2010. 自然環境保全基礎調査 動物分布調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.

【関連文献】

- 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 343pp. 保育社, 大阪.
- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類, pp.23–40. in: 佐藤正孝・安藤 尚(編), 愛知の動物, 325 pp. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
- 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究, 日本貝類学会.
- 増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸産淡水産貝類相, 74pp. 東海大学自然史博物館.
- 松本幸雄, 1979. 三重の貝類（三重県産貝類目録）, 179pp. 鳥羽水族館, 鳥羽.

(木村昭一)